

1. 科目名 (単位数)	コミュニケーション技術Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	SNMP2113
2. 授業担当教員	真下 京子、木村 仁美			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係	日本語文法とローマ字表記についての基礎的理解を前提とする (点字)			
7. 講義概要	<p>手話は聴覚障害者の生活の中で創り出され守られ発展してきた言葉である。講義では聴覚障害者の暮らし、聴覚障害そのものについて学び、知識を身につける。演習では日常会話の基礎、自分の事を伝え合う手話技術を習得する。</p> <p>また、視覚障害者の文字処理手段の一つである「点字」の基礎を学ぶ。読み書きだけでなく、印つけなどの応用的活用も目指す。また、彼らが抱える諸問題にも触れ、視覚障害者の情報保障に幅広く対応できる力をつける。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護施設を利用する聴覚障害者が使う簡単な手話が理解でき手話での挨拶や自己紹介程度の会話が可能レベルの手話技術を習得することができる。 ・点字の文字構成を理解し、一覧表を参考に基本的な読み書きができるようになる。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【レポートの課題】</p> <p>1 バリアフリーを考える (1200字程度) (手話) 「ユニバーシティライフ ～ろう・難聴学生の素顔～」のビデオ鑑賞をし、同じ学生の立場から感じ取ったことを記述する。</p> <p>2 授業進度に合わせ、点字の読み書き課題を毎回課す。与えられた課題は必ず自分の力でこなすこと。点字は「習うより慣れろ」と言われ、授業時間外の自主的な取り組みが上達を左右する。(点字)</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>木村仁美・矢部健三『はじめて学ぶリアルな「点字」ワークブック』国際視覚障害者援護協会、2023年。</p> <p>【参考書】</p> <p>一番ヶ瀬康子監修『聴覚・言語障害者とコミュニケーション』一橋出版株式会社。 ビデオ：聞こえないことってどんなこと『わたしの大切な家族』(全国手話通訳問題研究会)。 点字の基礎を解説したウェブサイトも多い。入門書も多数あり、自分でわかりやすいと思うものを参考にすると良い。以下に一例を紹介する。 『点字にチャレンジ!』https://www.nittento.or.jp/images/pdf/information/braille_comic.pdf 社会福祉法人 日本点字図書館 点字製作課編 『点訳のしおり平成27年8月1日HE改訂2刷』、2015年。</p> <p>【教材】点字器・点筆・点字用紙 (授業時間内は大学より貸与) ※教科書で指定しているワークブックに記入しながら学習を進める。期末試験の際も必携で、貸し借り不可。点字分野の初回講義より新しいワークブックを各自1冊持参のこと。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護施設を利用する聴覚障害者が使う簡単な手話が理解でき、手話での挨拶や自己紹介程度の会話が可能レベルの手話技術が習得できたか。 2 点字の基本的な文字構成を理解し、一覧表を使いこなすことができるか。 3 一覧表を参考にしながら、点字の基本的な読み書きができるか。 4 点字表記法に従い、基本的な分かち書きができるか。 <p>○評定の方法</p> <p>手話：実技確認 (期末試験) 30% (手話表現確認)、レポート 15%、日常の授業態度 5% 点字：試験 20%、授業態度 (課題提出状況、課題への取り組み姿勢) 15%、課題達成度 15%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>真下：</p> <p>もし介護現場の人が少しだけでも手話が使えたら、利用者である聴覚障害者はより安心し深い信頼関係を築くことができます。目と目を合わせて表情や体全部を使って相手と語り合う手話は、人と人との関わりの原点といえるでしょう。そういった魅力を学生たちにも感じて欲しいと思います。</p> <p>①授業に際しての約束事項 (受講生への要望)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手話は目と目を合わせなければ語り合えません。しっかり相手と向き合って手を動かしましょう。 2. 手話は頭だけで理解し覚えることはできません。手と体を使って手話表現を覚えましょう。 <p>②勉強の仕方についてのアドバイス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習した内容は、一人で復習するよりも友達と一緒にやる方が覚えられます。 2. 実際に使ってみることが一番の手話技術習得につながると思います。 <p>③教師が実行すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開始時間と終了時間を厳守する。 2. 「手話の授業は楽しい。もっと勉強したい。」と思えるような授業にします。 <p>木村：</p> <p>点字分野は土曜日の集中講義にて行います。開講日が確定次第、周知されますので、欠席のないよう調整願います。点字スキル向上のポイントは視覚障害者の立場をイメージできるようになることです。この機会に点字の触読にも是非チャレンジしてみてください。</p>			
13. オフィスアワー	授業の前後の休憩時間			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	(真下) 指文字学習	事前学習	第1講座を確認して読んでおく	
		事後学習	履修した手話や指文字を日常生活の中で使	

	自分の名前・指文字を覚えよう 伝え合う工夫を：挨拶・会話例文（一日の始まりはまず 元気なあいさつで）第1講座		つてみる
第2回	(真下) 指文字学習 「聞こえないって、どんなこと？」聴覚障害者の暮らし を描いたビデオから学ぶ。 自分達の暮らしと比べながら生活や様子を知り、不便さ を取り除くバリアフリーの設備や方法を考える	事前学習	テレビで聴覚障害者の番組を見る
		事後学習	自分の一日の暮らしを聞こえなかったらど うなるか自分の事に置き換えて考えてみよ う
第3回	(真下) 指文字学習 伝え合う工夫を：日常的な動作、動きの活用・会話例文 (食事の時間です) 第2講座	事前学習	第2講座を確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話文や手話歌を友人や家族との 会話の中で使ってみよう
第4回	(真下) 伝え合う工夫を：日：数詞・会話例文（今日はお誕生会 があります）第3講座 手話歌「この手で歌おう指文字の歌」	事前学習	第3講座を確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話文や手話歌を友人や家族との 会話の中で使ってみよう
第5回	(真下) 伝え合う工夫を：疑問詞・自己紹介 (今日は実習生の鈴木さんがきまし た) 第4講座 伝え合う工夫を：疑問詞・身近な話題で会話（仕事や趣 味について）第5講座	事前学習	第4講座第・5講座を確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話文や手話歌を友人や家族との 会話の中で使ってみよう
第6回	(真下) バリアフリーを考える 「ユニバーシティライフ ～ろう・難聴学生の素顔～」 ビデオから学ぶ（ディスカッションとレポート提出課題	事前学習	もし、同級生にろう・難聴学生がいたら、自 分はどう対応するか考えてみる
		事後学習	ビデオを見て、ろう・難聴学生にとっての情 報バリアフリーについて考えてみよう
第7回	(真下) 伝え合う工夫を：時制・会話例文（明日は山本さんが楽 しみにしている外出日です）第6講座	事前学習	第6講座を確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話文や手話歌を友人や家族との 会話の中で使ってみよう
第8回	(真下) 伝え合う工夫を：時制・会話例文（土井さんがクリスマ スの計画を相談しています）第7講座 手話歌から学ぶ：クリスマスソング 総復習	事前学習	第7講座を確認して読んでおく
		事後学習	学習した会話文や手話歌を友人や家族との 会話の中で使ってみよう
第9回	(木村) ガイダンス・視覚障害者の文字処理	事前学習	点字学習の目標を立てておく
		事後学習	点字と墨字の違いを整理する
第10回	(木村) 点字の基礎知識	事前学習	点字の歴史や構成を知る
		事後学習	点字用紙のセットと「め書き」ができるよ うに練習
第11回	(木村) 点字の読み書き1（50音清音）	事前学習	あ行の点構成を覚える
		事後学習	清音を使った単語の読み書きを繰り返 し練習する
第12回	(木村) 点字の読み書き2（長音・促音・濁音・半濁音）	事前学習	濁音符・半濁音符の構成を考える
		事後学習	長音・促音や濁音を含む単語の読み書 きを練習する
第13回	(木村) 点字の読み書き3（拗音・数字）	事前学習	拗音の構成を把握し、数字の並び順 を覚える
		事後学習	拗音や数字を含む単語の読み書きを 繰り返し練習する
第14回	(木村) 点字の読み書き4（点字表記法の基礎）	事前学習	文節とは何か、分かち書きの判断方 法を調べてみる
		事後学習	身近な文章を文節で区切ってみる
第15回	(木村) 点字の読み書き5（短文の読み書き）	事前学習	文節で区切った文を点字で書いてみる
		事後学習	点字学習の感想を点字で書いてみる
<p>期末試験</p> <p>※試験は、第8回後に手話分野、第15回後に点字分野で行います。</p> <p>※点字分野の試験は、講義終了後に続けて行います。問題文も回答ともにすべて点字となります。</p>			